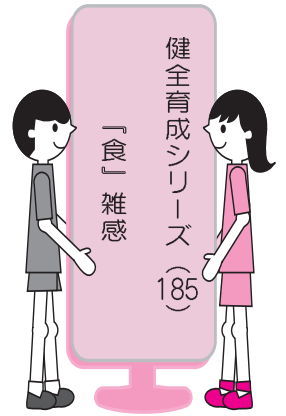


その後、学校給食の導入により、昼休みの過ごし方も大きく変わったのです。『同じ釜の飯』精神で、級友とのつながりも深まった感があります。誰気兼ねなく同じメニューを食し、連帯感も生まれました。また、受け持ちの先

小生が中学生のころは、昼休みにはほとんどの子どもが家に食事に帰っていました。小生も片道十五分を家まで走って帰り、咀嚼もそこそこ校庭に戻り、残り十分をドッジボールに興じたのでした。その陰で、生活の困窮故に昼食を摂れない友だちが、昼休みを様々な過ごし方で時間つぶしをしていた事実を知ったのは、ずっと後のことでした。



生が『食事のマナー』について機会あるごとに教えてくださったことも記憶に蘇ります。箸の使い方、忌み嫌われている箸の扱いなど熱心に説いていただき、その教えは今に生きています。

給食の教えは多大なものがあるでしょう。しかし、今、時移り、飽食の時代と言われて、聞けば、日々の残量もすこぶる多いという現状が耳に入ってきます。かつての食糧難の時代の生活ぶりを経験した者にとっては誠に嘆かわしい限りです。

さて、話は変わりますが、今から十有余年ほど前、埼玉県某町長さんの提唱で、学校給食の廃止が叫ばれ、子どもの教育に対する親の役割と学校の役割とを根本から話し合う機会が持たれました。連日保護者の猛反発に合う行政側の説明がテレビニュースに流れました。その後、町長さんのご逝去に伴い、その後のことについては全く耳にしなくなりましたが、今、再び給食問題を含めて「食」に対する関心が深まっています。

昨年、「食育基本法」が制定された背景に見られるように、今、子どもたちの食習慣が乱れているのは、どこに起因しているのでしょうか。

朝食を食べないで登校する子どもたちのその日の生活の不完全燃焼の様子、後々の気力や体力への影響、強いては、生活習慣病予備群に至るなどという心配な予測がなされています。食事の最低限のマナーも徐々に薄れてい



るようで、その対策のために様々な対応策が考えられるようになりました。「朝食」まで用意する学校が出現したというニュースも聞きました。

そして今、こんなに騒がれるようになった「食育」対策のために、家族の愛情が十分に注がれたメニューを家族揃って作ってみたいかがしよう。家庭により諸事情があるので一概に言えませんが、家族みんなで炊事分担を当番制にしたり、方法は様々考えられますが、要は、楽しい食習慣を各戸で真剣に考えてこそ、「食」を通して家庭でできる子育ての最善の手だてが見いだせるのではないかと思います。

『衣食足りて礼節を知る』の諺のとおり正しい食習慣を身につける努力を、惜しまないようにする中で、「いただきます」と言う言葉の意味も認識を深められるでしょう。食の乱れが生活の乱れにならないように心して取り組みたいものです。

エコドライブ運動実施中

自動車から出される排気ガスは、二酸化炭素や窒素酸化物を大量に含んでいて、地球温暖化や大気汚染の原因のひとつとなっています。

県内で排出される二酸化炭素の4割以上が運輸部門からのもので、そのほとんどは自動車関係です。

このため、県では、自動車からの二酸化炭素の排出量を減らす「エコドライブ運動」を展開しています。

この運動の趣旨をご理解いただき、エコドライブ運動を実践していただきますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

エコドライブ実践の10項目

- ①無用なアイドリングをしない(アイドリングストップ)
- ②無用な空ぶかしをしない
- ③急発進及び急加速をしない
- ④交通の状況に応じた安全な定速走行に努める
- ⑤早めにシフトアップをする
- ⑥減速時には、エンジンプレーキを活用する
- ⑦確実な点検・整備を行う(タイヤの空気圧など)
- ⑧不要な荷物を積まない。また、燃料をむやみに満タンにしない
- ⑨エアコンの使用を控えめにする
- ⑩計画的なドライブをする